

Zoomで何でも読もう会

書物名	『塩狩峠』 三浦綾子著	開催 日時	2021.7.1	推薦	
巻・章	全編		Zoom 読み会	出席者	10名

1966年（昭41）4月～2年半、日本キリスト教団の月刊雑誌『信徒の友』に連載。
その後単行本、文庫本に。

明治末年の北海道。長年の結核が癒えたフィアンセと結納を交わすために札幌に向かった主人公・永野信夫。ところが、旭川の手前の塩狩峠で客車の連結が外れた。

このままでは客車は下に転げ落ち、転覆する。信夫は何を考え、如何に行動したか。

実際におきた事故、実在のモデルを下敷きに、作者自身の長く、苦しい闘病生活もこのフィアンセに重ねつつ、キリスト信者としての「犠牲」の精神を世に問う。

感動した、しなかったが分かれた。昔は涙で読んだが、そうでもなかったとの意見も。

<主な辛口コメント>

年齢のなせる業

キリスト信者向けがベースなので、その匂いがちょっと

身を挺して、がウソっぽい、逃げられたのでは

少年少女向けの文章で入り、それが続くのがちょっと

札幌移住後はどんどん進むのに、前半の少年期がかつたるい

作者三浦綾子さんが、結核、カリエス、直腸がん、パーキンソン病などを次々と患い、
その中で沢山の作品を世に送り出したこと自体に全員が大きな感動を覚えた。